小売業

1．評価対象企業（22 社）

【百 貨 店】（4 社）

J.フロントリテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、高島屋、丸井グループ

【総合小売・コンビニエンスストア】（3 社）

セブン&アイ･ホールディングス、
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、イオン

【ネット通販】（3 社）

アスクル、MonotaRO、ZOZO

【専 門 店】（12 社）

エービーシー･マート、マツキヨココカラ＆カンパニー、ツルハホールディングス、
良品計画、スギホールディングス、アシックス、しまむら、ケーズホールディングス、
ヤマダホールディングス、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、
サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	19
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	4	14
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	8
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 31 名（所属先 23 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**を中心に項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.4 点（昨年度 70.5 点）、総合評価点の標準偏差は 11.0 点（昨年度 10.7 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4 社）：79.1 点（昨年度 79.6 点）、総合小売・コンビニ

エンスストア（3 社）：74.3 点（昨年度 74.1 点）、ネット通販（3 社）：68.6 点（昨年度 70.2 点）、専門店（12 社）：68.3 点（昨年度 67.0 点）となった。専門店においては、一部の企業が高得点となったため、同業態の総合評価平均点は改善したが、評価対象企業間の総合評価点の差は依然として大きく、下位評価企業においては一層の改善努力を求めたい。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（昨年度同率）、**説明会等**が 79%（昨年度同率）、**フェア･ディスクロージャー**が 85%（昨年度同率）、**ESG 関連**が 67%（昨年度 65%）、**自主的情報開示**が 51%（昨年度 46%）となった。

④　評価項目について見ると、平均得点率 80%以上の評価項目は 6 項目となり、そのうち 85%以上は次の 5 項目（**説明会等**の中の 2 項目(a)(b)および**フェア･ディスクロージャー**の中の 3 項目(c)(d)(e)）であった。

(a)「月次の売上状況は、十分に開示されていますか」（平均得点率 87%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：10%未満 1 社・50%台 1 社・70%台 2 社・80%台 4 社・90%台 9 社・100%5 社）

(b)「各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか」（平均得点率 88%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 3 社・90%台 15 社）

(c)「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率 89%〔昨年度同率〕）（得点率：70%台 1 社・80%台 8 社・90%台 13 社）

(d)「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか」（平均得点率 93%〔昨年度同率〕）（得点率：30%台 1 社・80%台 2 社・90%台 12 社・100%7 社）

(e)「英文による情報提供は充実していますか」（平均得点率 85%〔昨年度 84%〕）（得点率：50%台 2 社・70%台 9 社・100%11 社）

⑤　一方、次の**自主的情報開示**の項目は、50%台となり、全 17 項目の中で最も低い水準であった。

・「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率 51%〔昨年度 46%〕）（得点率：10%台 1 社・20%台 6 社・30%台 3 社・50%台 4 社・60%台 4 社・70%台 2 社・80%台 2 社）

(2)　上位３企業の評価概要

第 1 位　アシックス（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点 88.3 点〔昨年度比＋3.7 点〕

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉90%）、**自主的情報開示**（89%）が第 1 位、**説明会等**が同得点第 2 位（88%）、**ESG 関連**が第 3 位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 6 位（95%）となった。昨年度に比べ、**フェア･ディスクロージャー**を除く 4 項目において得点率が改善した。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」が共に最も高い評価となった。また、「経営陣の IR 姿勢（2 項目計）」（第 2 位）も 90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップが IR 活動を重視し、投資家との対話で得られた意見や知見を経営や情報開示、IR 活動に積極的に反映している点を評価する声が寄せられた。また、IR 活動への姿勢が常に進化していることに加え、個人投資家向けイベントの開催などを通じて幅広いステークホルダーに対する情報開示の充実を図っている点を評価する声があった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となり、「決算情報開示」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会やインタビューにおいて、経営陣が質問に対して丁寧かつ真摯に対応するとともに、質疑応答の質が高く、解像度の高い情報開示や適時開示への取り組みが優れている点を評価する声が寄せられた。「月次の売上状況が、十分に開示されていること」は第 21 位であった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていること」および「外国人投資家向け情報提供」が共に満点となった。また、「決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」（同得点第 5 位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 7 位）も共に 90%以上の得点率であった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」が第 2 位となった。また、「ESG に関する取組み」(3 項目）は、「ESG に関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていること。また、企業価値関連性への言及は十分であること」および「人的資本に関する項目」が第 3 位となったほか、「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること。また、企業価値関連性への言及が十分であること」は第 6 位であった。これらに関連して、本業と経営理念、ESG への取り組みが一貫しており、それらが企業価値向上につながっていることを分かりやすく示している点を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、その内容が充実していること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、IR DAY および海外拠点ツアーの定期的な開催や個人投資家向けの説明会を全国的に展開している点を高く評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　良品計画　（総合評価点 84.7 点〔昨年度比＋1.7 点〕、昨年度第 3 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（88%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 2 位（96%）、**自主的情報開示**（84%）が第 2 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（83%）、**ESG 関連**が第 5 位（78%）となった。昨年度に比べ、**フェア･ディスクロージャー**を除く 4 分野において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR の基本スタンス」が第 2 位、「IR 部門の機能」は同得点第 2 位にとなった。これらに関連して、IR チームの充実した体制を評価する声があった。また、「経営陣の IR 姿勢（2 項目計)」は第 3 位となった。これに関連して、経営トップが説明会やスモールミーティングに積極的に参加するなど、IR 活動への関与を強めているほか、投資家との対話を重視し、その結果を迅速に情報開示へ反映するとともに、機動的かつ丁寧なコミュニケーションを実践している点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「決算情報開示」が同得点第 1 位となった。これに関連して、質・量ともに優れた情報開示を継続的に改善している点を評価する声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」が第 3 位となった。これに関連して、高いレベルの質疑応答が行われているほか、投資家目線に立った分かりやすく納得感のある説明がなされている点を評価する声が寄せられた。なお、品目別・地域別のさらなる詳細な情報開示を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていること」および「外国人投資家向け情報提供」が共に満点となった。また、「決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」(同得点第 3 位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 7 位）も共に 90%以上の得点率であった。なお、説明会等の日程について、他社との重複を避けるなど、投資家への配慮を期待する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「ESG に関する取組み」(3 項目）のうち「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること。また、企業価値関連性への言及が十分であること」が同得点第 3 位となったほか、「人的資本に関する項目」は第 4 位であった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 2 位となった。充実していたイベントとして、商品展示会やコロナ禍後初の海外での IR イベントを挙げる声が多く寄せられた。

第 3 位　三越伊勢丹ホールディングス　（総合評価点 84.2 点〔昨年度比－0.2 点〕、昨年度第 2 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（86%）、**説明会等**（88%）、**フェア･ディスクロージャー**（96%）が同得点第 2 位、**ESG 関連**が第 4 位（81%）、**自主的情報開示**が第 9 位（58%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢（2 項目計)」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが IR 活動に積極的に関与し、経営戦略や施策の狙いを投資家に分かりやすく発信しているほか、説明会資料に「直近の対話における主な論点と情報」を掲載するなど、投資家との対話で得られた意見や知見を IR 活動や情報開示へ反映する姿勢、さらには投資家目線を意識したコミュニケーションを通じて中長期的

な企業価値向上への期待を高めているとの声が寄せられた。また、「IR の基本スタンス」は第 4 位に、「IR 部門の機能」は第 5 位となった。これらに関連して、IR チームの充実した体制と、質・量ともに優れた情報開示を実現しているとの声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「決算情報開示」が同得点第 1 位となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は第 2 位となった。これに関連して、決算説明会等において質疑応答のレベルが高いとの声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に同得点第 1 位となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2 項目計）も同得点第 3 位となり、90%以上の得点率であった。これらに関連して、月次リリースにおいて国内顧客売上高と海外顧客売上高の内訳開示を開始したことや、説明会における質疑応答の内容を詳細に開示している点を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」の得点率が、昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価となった（昨年度同得点第 1 位）。また、「ESG に関する取組み」（3 項目計）は同得点第 5 位となった。これらに関連して、KPI 目標や資本政策に関する詳細な説明を評価する声が寄せられた。なお、資本政策、株主還元策等に関する説明と比較すると、ESG 関連情報の開示についてはさらなる充実を望む声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 9 位となった。充実していたイベントとして、事業説明会を挙げる声が寄せられた。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（小売業）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 34点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 19点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目4（配点 14点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 25点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7936　アシックス	88.3	30.5	1	16.7	2	13.3	6	20.7	3	7.1	1	1
2	7453　良品計画	84.7	28.3	3	16.8	1	13.4	2	19.5	5	6.7	2	3
3	3099　三越伊勢丹ホールディングス	84.2	29.3	2	16.7	2	13.4	2	20.2	4	4.6	9	2
4	9983　ファーストリテイリング	82.9	27.9	4	15.0	13	13.6	1	21.3	2	5.1	6	6
5	8252　丸井グループ	82.7	26.1	6	15.9	7	13.4	2	21.5	1	5.8	4	4
6	7532　パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	80.2	26.9	5	16.0	6	12.9	10	18.1	7	6.3	3	8
7	3086　J. フロント リテイリング	77.2	24.5	7	15.7	8	13.2	7	18.9	6	4.9	7	5
8	3382　セブン＆アイ・ホールディングス	73.3	22.5	16	14.7	15	12.7	11	17.9	8	5.5	5	9
9	8233　高島屋	71.9	23.9	12	15.5	10	12.0	13	16.1	12	4.4	10	13
9	8227　しまむら	71.9	24.2	11	16.6	4	11.7	14	15.0	17	4.4	10	10
11	2678　アスクル	71.4	23.8	13	15.2	12	13.0	8	16.5	11	2.9	13	7
12	8267　イオン	70.1	21.4	18	13.8	18	13.0	8	17.0	10	4.9	7	11
13	8282　ケーズホールディングス	69.1	24.4	8	16.4	5	11.3	16	15.2	13	1.8	19	12
14	3064　MonotaRO	68.4	24.4	8	15.5	10	11.7	14	14.5	19	2.3	16	15
15	7649　スギホールディングス	67.0	24.4	8	14.8	14	10.2	20	15.2	13	2.4	14	18
16	3088　マツキヨココカラ＆カンパニー	66.9	22.9	15	14.0	17	10.6	18	17.2	9	2.2	17	14
17	3092　ＺＯＺＯ	66.4	23.7	14	13.2	19	13.4	2	14.8	18	1.3	22	17
18	3391　ツルハホールディングス	66.2	21.0	19	15.6	9	12.1	12	15.1	15	2.4	14	19
19	9989　サンドラッグ	63.9	22.3	17	14.6	16	10.9	17	14.4	20	1.7	21	20
20	9831　ヤマダホールディングス	60.6	20.1	20	13.2	19	10.4	19	15.1	15	1.8	19	21
21	9843　ニトリホールディングス	49.5	13.8	22	11.1	22	7.5	22	13.0	21	4.1	12	22
22	2670　エービーシー・マート	43.5	13.9	21	12.2	21	8.6	21	6.8	22	2.0	18	23
	評価対象企業評価平均点	71.42	23.69		14.98		11.96		16.74		4.05		

2026年度の具体的評価項目および配点（小売業）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
①経営トップがIR活動に理解を示し、企業価値向上につながるよう注力していますか。また、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**9**	
②経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示していますか。	**5**	
(2)IR部門の機能		
・IR部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	**9**	
(3)IRの基本スタンス		
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョン・事業リスクを含め、業績の好不調や不祥事の有無にかかわらず、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	**11**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（19点）	**配点**	**委員のみ**
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会、インタビュー等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**6**	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示　〔以下①②については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する〕		
①実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか。また、セグメント分類をはじめ会計方針等の変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	**8**	
②月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	**2**	
(3決算情報開示		
・各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	**3**	
3．フェア・ディスクロージャー（14点）	**配点**	**委員のみ**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	**3**	
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
①決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	**5**	
②リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか。	**2**	
(3)外国人投資家向け情報提供		
・英文による情報提供は充実していますか。（0～4点の整数で評価）	**4**	●
4．ESGに関連する情報の開示（25点）	**配点**	**委員のみ**
(1)ESGに関する取組み		
①ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	**6**	
②ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	**6**	
③人的資本に関する課題、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性、企業価値関連性を適切に説明していますか。	**6**	
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示		
・中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	**7**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	**配点**	**委員のみ**
・決算説明会、ESG説明会以外のIRイベント等を積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。［過去1年間を目安に評価］【充実していたIRイベント等名をコメント欄に記入して下さい】	**8**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

小売業専門部会委員

部　会　長	小場　啓司	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
部会長代理	高橋　俊雄	みずほ証券
	江上　　誠	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	風早　隆弘	UBS 証券
	金森　　都	SMBC 日興証券
	西村　俊一	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	村田　大郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

評価実施アナリスト（31 名）

有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券	須藤　翼	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井上　昂洋	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券	高田　訓弘	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
江上　誠	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	高橋　俊雄	みずほ証券
大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	竹村　淳郎	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
風早　隆弘	UBS 証券	田村　真一	極東証券経済研究所
金森　都	SMBC 日興証券	竹間　雅子	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
金森　淳一	岡三証券	永田　和子	QUICK
岸本　晃知	みずほ証券	仲西　恭子	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
高　英詞	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	西村　俊一	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小場　啓司	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	古川　藍	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
榮　哲史	野村證券	村田　大郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
坂田　喜彦	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山岡　久紘	野村證券
重岡　絵美里	大和証券	横山　雄一	三菱 UFJ 信託銀行
篠崎　真紀	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社	米島　慶一	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
島原　陸也	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	李　　想	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
須ケ間　大樹	日本生命保険		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。